

ついに起動開始！「KSK2」で 税務調査が変わること

KSK2

(1) KSK2とは

現在の「KSKシステム(国税総合管理システム)」を次世代化したもの。

現在、税務署では、法人税・所得税・消費税・相続税・電子申告データ・税務調査情報など、多くの情報を管理しています。**KSK2は、これらをより効率的・高度に管理するための「新しい国税のデジタル基盤」**です。

(2) なぜKSK2が導入されるの？

近年、「e-Tax」「キャッシュレス決済」「クラウド会計」「インボイス制度」「電子帳簿保存法」などにより、企業データの電子化が急速に進んでいます。また、暗号資産の台頭・海外取引の増加・複雑化する国際的租税回避スキームなど、デジタル化によって新たな取引実態が爆発的に増え続けています。そのため国税当局も、「紙中心の管理」から「データ分析中心の管理」へ移行する必要が出てきました。KSK2は、その中心となるシステムです。

(3) KSK2で何が変わるの？

① 税務調査が“データ分析型”へ

従来の税務調査は、「売上推移」「現金管理」「領収書」「帳簿」などを人が確認する部分が多くありました。

しかし今後は、「電子申告データ」「インボイス情報」「銀行・決済関連データ」「過去申告との比較」などをAIやシステム分析で確認する流れが強まります。つまり、「**異常値の検知**」「**業種平均との差異分析**」などをアルゴリズムであぶり出し、ピンポイントで**【狙撃】するイメージ**になります。

② 申告内容の整合性確認が強化

例えば、「売上は増えているのに消費税が少ない」「インボイス情報と申告内容が一致しない」「**同業他社と比較して利益率が極端に低い**」などのケースは、システム上で把握されやすくなります。そのため、「**なんとなくの処理**」ではなく、「**説明できる経理処理**」が今まで以上に重要で**す**。

③ 電子データ保存の重要性が上昇

KSK2時代では、「紙があるから安心」ではなく、「**電子データとして適切に保存されているか**」が重要になります。

特に注意したいものとして、「PDF請求書」「メール添付の領収書」「クラウド会計データ」「キャッシュレス決済履歴」などです。**電子帳簿保存法への対応も、実務上ますます重要になります。**

④ 将来的にはあらゆるデータが統合管理

かつてのように「とりあえず帳簿を見せてください」という調査ではなく、**税務署が動く時点で「どこに不正があり、いくら追徴できるか」をシステムがはじき出し、その答え合わせを調査で行う可能性もゼロではない。**

今後、納税者が意識したいポイント

① **会計処理の根拠を残す** → 「なぜこの処理をしたか」を説明できる状態に。

② **電子データを適切保存** → メール・PDF・クラウドデータも重要資料です。

③ **売上・経費の整合性確認** → 消費税やインボイスとの整合性が重要。

小手先のごまかしは看破される可能性が高いので、ガラス張りの経理体制の構築が最大の防衛策である

【今月の経営格言】 口頭による指令は忘れられ、文章による
指令は守られる by 一倉定 (経営コンサルタント)

口頭と言うのは、元々あやふやなものである。本当のところ「口頭指令は独り言にしか過ぎない」。私は声を大にして「指令メモ」を書くように社長にお勧めする。メモを書くことなど1分以上かかることなど減多にない。社長が自らの指令を的確に行わせるためには、「指令は絶対に書いて行う」ことをやらなければならない。 「一倉定の経営心得」より